

授 業 科 目 名	ピアノ・声楽Ⅱ	教 員 名	土田 悦子 本田 奈留美 栗原 美妃 園田 春佳 南園 加奈子	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	選択
					保育士	
授 業 形 態	演習	担 当 形 態	クラス分け	卒業要件	こども音楽療育士	選択
科 目 番 号	KY0205	配 当 年 次	2年後期		小幼コース	選択
単 位 数	1単位			幼保コース	選択	
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園） 教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施 行 規 則 に 定 める 科 目 区 分 又 は 事 項 等	領域に関する専門的事項（幼稚園） 教科に関する専門的事項（小学校） ・音楽					
一 般 目 標	ピアノ・声楽の演奏技術を修得する。					
到 達 目 標	<p>(1) バイエル教則本後半を能力に応じて修得する。</p> <p>(2) 幼児教育、児童教育で用いる歌のうち、課題曲の弾き歌いが、個人の能力に応じた伴奏形によって演奏できるようにする</p> <p>(3) 小学校学習指導要領に記載されている共通歌唱教材のうち今学期の課題曲の弾き歌いが、個人の能力に応じた伴奏形で指導を視野にいれた演奏ができるようにする。</p> <p>(4) ピアノ・声楽の弾き歌いに必要な音楽理論について理解する。</p> <p>(5) ピアノのレッスンを通じて、教師の音楽性に学び、音楽を愛好する心情や、音楽対する豊かな感性を養う。</p>					
授 業 の 概 要	<p>本授業では、ピアノ・声楽の演奏技術を習得することによって、音楽を使った活動における指導能力の向上を目指す。そのために、ピアノ・声楽の演奏技術を高め、それに伴う音楽理論、知識をさらに深め、音楽を愛好する心情、音楽に対する豊かな感性を育成する。具体的には、ひとこま90分のグループレッスンとし、アクティブラーニングとして相互にレッスンを聞き合うことを通じて、バイエル教則本後半の演奏技術、学生の能力に応じた伴奏形による子どもの歌や小学校共通歌唱教材の弾き歌いの技能を習得する。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本演習は、教育学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「7. 基礎的な音楽力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：学生は、教材、授業方法（個人指導及びグループレッスン）、流れ、試験方法、評価方法等について理解し、レッスン担当者は、学生のこれまでの音楽経験について取材し、学生のピアノ演奏を聴き、今学期の方針を立てる。（目標(1)）</p> <p>第2回：個人レッスン及びグループレッスン バイエルおよび子どもの歌は個人の能力に応じた到達目標を把握させ、今学期の練習曲を確認する。また、グループレッスンにおいて、模擬活動を実施して、伴奏法や弾き歌い、発声など実践的なスキルを身に付ける。グループレッスンでは、伴奏や弾き歌いを相互に練習する。</p> <p>第3回：個人レッスン及びグループレッスン バイエルおよび子どもの歌の能力に応じた練習曲をレッスンし、グループレッスンでは模擬活動を実施する。音楽用語や理論をグループで共通理解する。子どもの歌、共通歌唱教材を練習し、各自の能力に応じて伴奏が弾けるようにする。（目標(1), (2), (3)）</p>					

	<p>第4回：個人レッスン及びグループレッスン バイエルおよび子どもの歌の能力に応じた練習曲をレッスンし、グループレッスンでは模擬活動を実施する。表現についてグループで考え合う。小学校学習指導要領にある、記号や音楽用語について正しく理解して演奏に反映させる。子どもの歌、共通歌唱教材は各自の能力に応じて弾き歌いできるようにする。(目標(1), (2), (3))</p> <p>第5回：個人レッスン及びグループレッスン バイエルは練習番号を進めてレッスンする。グループレッスンでは模擬活動を実施する。子どもの歌、共通歌唱教材は、各自の能力に応じて選曲し、弾き歌いについて表現能力を高める。(目標(1), (2), (3), (4))</p> <p>第6回：個人レッスン及びグループレッスン バイエルは練習番号を進めてレッスンする。グループレッスンでは模擬活動を実施する。各自の能力に応じて選曲し、子どもの歌、共通歌唱教材の伴奏が弾けるようにする。(目標(2), (3), (4), (5))</p> <p>第7回：個人レッスン及びグループレッスン バイエルは練習番号を進めてレッスンする。グループレッスンでは模擬活動を実施する。各自の能力に応じて、選曲した子どもの歌、小学校共通歌唱教材の弾き歌いができるようにする。(目標(2), (3), (4), (5))</p> <p>第8回：個人レッスン及びグループレッスン バイエルは練習番号を進めてレッスンする。グループレッスンでは模擬活動を実施する。各自の能力に応じて選曲し、子どもの歌、小学校共通歌唱教材の弾き歌いができるようにする。(目標(2), (3), (4), (5))</p> <p>第9回：個人レッスン及びグループレッスン バイエルは能力に応じた練習曲を試験曲としレッスンする。グループレッスンでは模擬活動を実施する。子どもの歌の課題曲及び小学校共通歌唱教材のいずれも弾き歌いできるようにする。(目標(2), (3), (4), (5))</p> <p>第10回：個人レッスン及びグループレッスン バイエル、こどもの歌は能力に応じた練習曲を試験曲とし、グループ内で試験の予行を実施し、演奏、表現能力の定着を図る。(目標(1), (2), (3), (4), (5))</p> <p>第11回：第1回実技試験 任意のバイエル教則本前半の練習曲の演奏および子どもの歌を弾き歌いする。担当講師全員で評価する。(目標(1))</p> <p>第12回：個人レッスン及びグループレッスン 課題曲の子どもの歌、共通歌唱教材の能力に応じた練習曲を進め、演奏能力の向上を図る。グループレッスンでは模擬活動を実施する。(目標(4), (5))</p> <p>第13回：個人レッスン及びグループレッスン 課題曲の子どもの歌、共通歌唱教材の能力に応じた練習曲を進め、選んだ試験曲をレッスンし、弾き歌いでの演奏能力の向上を図る。グループレッスンでは模擬活動を実施する。(目標(4), (5))</p> <p>第14回：個人レッスン及びグループレッスン 能力に応じた練習曲を進め、子どもの歌、共通歌唱教材の課題曲の弾き歌いが出来るようにする。(目標(4), (5))</p> <p>第15回：個人レッスン及びグループレッスン 子どもの歌、共通歌唱教材の課題曲のいずれも弾き歌いできるようにし、演奏能力を向上させ、定期試験曲とする。(目標(4), (5))</p> <p>定期試験：第2回目は試験期間中に実施 準備した曲について当日試験官が指定した曲を弾き歌いする。担当講師全員で評価する。</p>
学生に対する 評価	実技試験：第1回バイエル試験45%・第2回弾き歌い試験45% 定期試験：10%

	<p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週2時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：毎回、指導者より出された課題をしっかりと練習し、レッスンに備える。</p> <p>事後学習：講義内容について自分なりに整理し直し、次回授業までに何を練習するかを確認する。</p>
テキスト	<p>『バイエルピアノ教則本』(各社)</p> <p>『こどもの歌ベストテン』(ドレミ楽譜出版社)</p> <p>『新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法』(教育芸術社)</p>
参考書・参考資料等	<p>『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』</p> <p>『保育所保育指針〈平成29年告示〉』</p> <p>個人の能力に応じた楽曲</p>
担当者からのメッセージ	<p>特になし</p>
オフィスアワー	<p>土田・本田・栗原・園田・南園・高橋(秀)・高橋(千)・明石：授業の前後の時間(メール等でアポイントを取ること。)</p>